社会教育の原点を見直そう

石川県社会教育協会参与　旭　　直　樹

石川県社会教育協会創立70周年、誠におめでとうございます。当協会は、昭和23年（1947）9月29日に発足されました。翌年公布された「社会教育法」に先駆けており、その先見性に敬意を表するものであります。以来、絶えず現代的課題に取り組み、学校教育以外の場で啓発・実践活動を通して、人材を養成されてきました。まさに「気づきから行動へ」のボランティアとして、陰で時代を支えてこられました。改めて感謝申し上げます。

ところで、旧教育基本法には、道徳心と祖国愛については先の戦争を生み出した土壌であったという理由から排除され、「人として大切な人間関係」や「先人に感謝する心情」を学ぶよりも、個人として如何に生きるかが重視される教育になっていきました。この欠けた部分を「社会教育」で補おうとしました。その理念は、公共・福祉・共助等、世のため、人のために生きる生き方を教えることでありました。しかし、自分の生き方を追求する「生涯学習」の考え方が入ってくるにつけ、「社会教育」と「生涯学習」の混同がおこり、「社会教育」の崇高な理念が希薄になってきた感が否めません。国は、これを是正するため、平成18年（2006）、新教育基本法を公布・施行し、「生涯学習」の理念と「社会教育」の役割を明確化し、家庭教育支援や学校教育・社会教育・地域社会との連携も盛り込まれました。しかし、学校現場が抱える「いじめ」、「不登校」等の諸問題を解決していくには限界があります。学校を補うシステムこそ、「社会教育」であり、これを意識できる教員や社会人を育成していくことが喫緊の課題であります。しかるに、国は、派遣社会教育主事制度の助成を平成9年度限りで廃止して各都道府県独自の継続実施を促しましたが、荒廃する学校現場の実態から、教員を学校現場に配置する方がより現実的であるとの理由が優先され、教員の社会教育主事・有資格者は減少しているのが現状であります。

そこで、創立70周年を経た今こそ、「社会教育」の原点を見つめ直す時ではないかと思います。そして、なにより、子供を立派な社会人としていくためにも、この社会教育を意識できる人材を育てていかなければなりません。毎年実施されている「社会教育主事講習」に一人でも多く受講できるよう、県や各市町教育委員会は、これを予算化し、将来を担う子供たちのために教員を送り出して欲しいと切に願っています。

子供を大人にするということは、「自分のためだけに生きるのではなく、人のために生きる」ということに気づかせ、それを実践できる人間に育てていくことに尽きると思っています。そ

のための教育が、学校教育であり、社会教育であると確信しています。

ですから、幼児期から小学校までは、できるだけ多くの体験学習を意識し、中学校から高等学校では、生徒である前に社会の一員であることを自覚させるため、積極的に社会参加させることを意図的・意識的に仕掛ける必要があります。当協会 70 周年にあたる今年からは、18 才以上で選挙権が発効されます。公共の為に生きることが自分の生き甲斐につながることを自覚できる青少年を育てていくことが急務であります。

最後に、我々は、いつかは死にます。我々人間は、群で生きていく社会的動物であります。この現実から目を逸らさず、「何のために学び、何のために生きるのか」という原点を見つめて、社会に貢献して生きることを目標とする「社会教育」を意識できる人材を育てていかなければなりません。そうした観点から、これからも、当協会の果たすべき役割は大きなものがあります。これまでに感謝し、さらなる発展をお祈りいたします。